

支部だより

埼玉西支部

支部長 千木良 宣行
埼玉西支部は月一回の勉強会で、午前は作品を持ち寄っての合評会、午後は人体デッサン。それと、月一回の野外スケッチ会を実施しています。

今年特別企画で、六月に「絵とは、そして美とは何か」のテーマで、午後の勉強会に、全員でのトークセッションを試みます。
(※勉強会やスケッチ会は、その都度五百円を支部に納入すれば、どなたでも参加可)
そして四月には川越のギャラリーR+で、去年夏のスケッチ会利尻・礼文島の旅の、「北のさいはてを描く・三人展」。五月は川越市立美術館で「支部展」。十月には「新日本美術展」。十一月は小品の「彩り展」です。

スローガンは「新しい風を」とあり、目標は「自分なりの「美」の創出・研鑽を、生涯続けること。徒に人数を増やすより、やる気や才能を見出し、伸ばすことです。支部は会の見えぬ根っこであり、ここを踏み台として上野の本展や、大きな舞台で活躍する人が出れば、佳しです。

昨年は上野の本展で二名受賞、難関の埼玉県展には六名入選。川越市展では二、三位受賞。と活躍しました。しかし入選・入賞は時の運もあり、華やかさだけを追うのではなく、実力を身に付けることが大切です。

支部では諸先輩の業績を尊重し、上も下も、古いも新しいも、男も女も、過去の栄光も、一切なし。大事なことは「何を為したか」ではなく、「今何をしようとしているか」。私は今年、支部の誰よりもタブローの枚数を多く描くことを、宣言しています。

神奈川支部

支部長 鈴木忠義

神奈川支部も、当然ながら他支部と同様、絵画制作が第一の重要な目的である。更に何か別の要素をプラスできないか、との考えで東日本大震災直後の支部展では募金をし、地元の新報社に寄付をした。又、ホテル保護の募金をしたり、神奈川地域の運動紹介やら、会員の古里紹介をして支部展を盛り上げて来た。ホームページも開設してあるので暇がある時は見てもらいたい。先ず支部の概要を紹介しよう。

支部の結成は昭和五五年(1980)秋で、十月に第一回展を川崎市民ギャラリーで開催した。
一方新日本美術協会は二年前の昭和五三年十一月に新洋画会として発足。翌年に横浜市民ギャラリーで二回展を公募展として開催した。この横浜開催が神奈川支部結成の契機になっている。だから支部としては最も古いであろう。

このように勘定をすると神奈川支部は今年で三六回展だ。四月二十八日(火)〜五月三日(日)アトガードンかわさきJRC川崎駅隣で行う。新入会員もとし三名をお迎えし十九名になり支部として益々充実してきた。(構成、絵画委員5、工芸委員1、一般会員13計19名)何と言ってもメンバーは個性豊かだ。全く楽しい支部である。夫々年二〜三回G展、個展に励んでいる。

では、歴代支部長に進もう。創世期の支部で最も苦労した初代支部長が、本展の表彰式で代行を務めた委員の山下利隆さんである。中尾会長の体調不良のためである。そして二代目の支部長が同じ支部創世期にいた相楽富美子さんで、三代目がやはり委員の陳俱子さんである。そして私鈴木が四代目の支部長で本部会計をし、現在へと来ている。以上が支部概要である。

鈴木特別会員より個展のメッセージ

旧年中は一方ならぬお世話になりました。本年も相変りませずお力添えをお願い申し上げます。私もお陰様でなんとか気力だけは負けずに持つてはおりますが年々体力は落ちてきているのがはつきりして、絵筆がしつかりと持てずポトンと落としてしまうようになりました。

然し絵は描きたい一心で今回の第三十八回展で展示して頂いた信濃麦秋はサイン以外、実は殆ど筆と指だけで仕上げたものです。それでも、まだ絵を続けて描きたくて今回地元松本での個展を計画しております。別紙の予定表と会場パンフレットを参照の上、会報に掲載賜りますようお願い申し上げます。今日から、掌と指を生かして個展に向けて、新日美の発展とPRに、信州松本北アルプスの麓で力投致します。この手紙も両手でやつと描きました。(森屋事務局長宛の手紙から抜粋しました)

スケッチ会の実施報告と次回予定

事業部 一柳 幸

2014-9-27(土)三の輪浄閑寺投げ込み寺

三の輪浄閑寺が「投げ込み寺」と言われている分けは安政二年の大地震で死んだ遊女が多数投げ込み同然に運び込まれて葬られた事による。

本堂に向かって左手にある小門より中に入ると墓地になっていて、奥まった所に慰霊塔がある。地藏菩薩がおおす立派な塔で脇の小窓から多数の骨壺が見えて何となく哀れである。

「苦界から 遊女極楽へ 秋の風」と回向の手を合わせた。

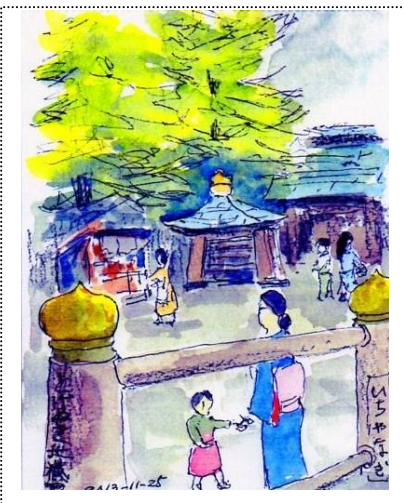
2014-10-18(土)板橋仲宿縁切り榎竹の湯蕎麦処

旧中山道板橋宿の宿場はずれの街道沿いに縁切り榎が立っている。(板橋本町-18)何故この名前が付いたのかはよく分からないが、昔から花嫁はこの下を通ることを避けた、と言われている。

長寿庵という蕎麦屋が直ぐ近くに在って、その老主人が色々昔からの言い伝えを話してくれた。小生には「縁切り榎 宿場女の 秋の風」と思えるのだが、どうであろうか。スケッチの後長寿庵での絵画談義に花が咲いた。残念ながら銭湯 竹の湯(月曜定休)へは寄れなかった。

2014-12-13(土)佃島佃小橋住吉神社月島界限

佃島は広重の名所江戸百景にも描かれ住吉神社と共に有名である。江戸時代はおろか明治大正から昭和中期に至るまでの佃島界限の様子は全く変わってしまったが、それでも佃小橋の姿と入江の掘割にはそこはかとなく面影が残っている。舳舳船を添景物として佃小橋、対岸の柳を描いてみるのも面白い。スケッチが終われば月島あたりの赤提灯も又よからずや。というところか。



鈴木健夫洋画展(新日美特別会員)

会期: 平成 27 年 5 月 13 日(水)〜18 日(月) 6 日間(初日は午後 1 時から、最終日は午後 2 時まで、他は午前 9 時〜午後 5 時まで)

会場: 梓川アカデミア館、松本市梓川 566-12 TEL0263-78-5000 0 号から 30 号約 25 点展示予定



次回予定

当日 7 時の天気予報で降水確率 50%を超える場合中止します。

○2015-2-21(土)白金自然教育園 自然教育園 正門受付前 10 時集合、山手線目黒駅東口より徒歩 10 分、地下鉄三田線白金台下車徒歩約 3 分。

2015-3-21(土)谷中夕焼け段々天心記念園 谷中夕焼け段々 10 時集合、山手線日暮里駅西口より西方向 10 分。